

季刊 地域と農政を結ぶ

VOL.6
平成29年1月



富士山の麓で草を食む乳牛（富士宮市）

特 集

1. 平成29年度農林水産予算について
2. 「農業競争力強化プログラム」について

トピックス

- 「平成26年市町村別農業産出額（推計）」を公表しました
- 青色申告を始めましょう！（収入保険制度の導入に向けて）
- 「農泊」に取り組みましょう！

平成29年を迎え、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。
旧年中は、農林水産行政に御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げますとともに、
本年も、地域と農政を結ぶ架け橋として頑張ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

関東農政局静岡支局
地方参事官室担当職員一同

特集 1. 平成29年度農林水産予算について

昨年12月22日、平成29年度農林水産関係概算予算が決定されました。
予算総額は、2兆3,071億円で前年当初予算対比99.9%となりましたが、平成28年度第2次補正額5,739億円を加えれば、2兆8,810億円となり、前年当初予算対比124.8%となります。

この予算は、農林水産業・地域の活力創造プラン及び食料・農業農村基本計画で定められた方針や施策を着実に実施し、また、昨年11月29日、農林水産業・地域の活力創造プランに改訂・追加された農業競争力強化プログラム及び農林水産物輸出インフラ整備プログラムにおいて示された政策を進めていくための予算を措置しています。

平成29年度 農林水産予算の骨子

総括表

区 分	28 年 度 予 算 額	29 年 度 概 算 決 定 額 A	(28年度2次補正追加額)	
			補正額 B	A + B
農林水産予算総額 (対前年度比)	億円 23,091 —	億円 23,071 99.9%	億円 5,739 —	億円 28,810 124.8%
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,761 —	6,833 101.1%	2,863 —	9,697 143.4%
一般公共事業費 (対前年度比)	6,569 —	6,641 101.1%	2,150 —	8,791 133.8%
災害復旧等事業費 (対前年度比)	193 —	193 100.0%	713 —	906 470.4%
2. 非公共事業費 (対前年度比)	16,330 —	16,238 99.4%	2,876 —	19,114 117.0%

- (注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. このほか、28年度3次補正予算において、災害復旧等事業等に306億円を措置している。

公共事業費一覧

区 分	28 年 度 予 算 額	29 年 度 概 算 決 定 額 A	(28年度2次補正追加額)	
			補正額 B	A + B
農業農村整備 (対前年度比)	億円 2,962 —	億円 3,084 104.1%	億円 1,580 —	億円 4,664 157.4%
林 野 公 共 (対前年度比)	1,800 —	1,800 100.0%	410 —	2,210 122.8%
治 山 (対前年度比)	597 —	597 100.0%	100 —	697 116.8%
森 林 整 備 (対前年度比)	1,203 —	1,203 100.0%	310 —	1,513 125.8%
水産基盤整備 (対前年度比)	700 —	700 100.0%	160 —	860 122.8%
海 岸 (対前年度比)	40 —	40 100.0%	1 —	40 101.3%
農山漁村地域 整備交付金 (対前年度比)	1,067 —	1,017 95.3%	— —	1,017 95.3%
一般公共事業費計 (対前年度比)	6,569 —	6,641 101.1%	2,150 —	8,791 133.8%
災 害 復 旧 等 (対前年度比)	193 —	193 100.0%	713 —	906 470.4%
公 共 事 業 費 計 (対前年度比)	6,761 —	6,833 101.1%	2,863 —	9,697 143.4%

- (注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. 農業農村整備事業関係予算については、
・ 29年度概算決定額として4,020億円（農業農村整備事業3,084億円、農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分701億円及び農地耕作条件改善事業（非公共）236億円の合計）
・ 28年度2次補正額として1,752億円（農業農村整備事業1,580億円及び農地耕作条件改善事業等（非公共）172億円の合計）
を措置している。
5. このほか、28年度3次補正予算において、災害復旧等事業に123億円を措置している。

平成29年度農林水産関係予算の重点事項

総 額 2兆3,071億円
(2兆3,091億円)

(※) 各事項の下段()内は、平成28年度当初予算額
【補正予算】は、平成28年度第2次補正予算

1 担い手への農地集積・集約化による構造改革の推進

(1) 農地中間管理機構による農地集積・集約化

① 農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化の加速化

155億円
(81億円)

【補正予算】
農地情報公開
システムデータ整備
15億円

- ・ 担い手への農地集積・集約化等を加速化するため、農地中間管理機構の事業運営、農地の出し手に対する協力金の交付等を支援
(各都道府県の基金から充当し、不足分を措置)

② 農地の大区画化等の推進<公共>

(農業農村整備事業で実施)
1,034億円の内数
(913億円の内数)

【補正予算】
370億円

- ・ 農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化が行われる地域等において、地域の特性に応じた農地の大区画化・汎用化等を促進

③ 農地耕作条件改善事業

236億円
(123億円)

【補正予算】
102億円

- ・ 農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化を推進するため、担い手への農地の集積・集約化が行われ、又は基盤整備の実施により今後行われると見込まれる地域において、区画拡大、暗渠排水等を加え、土壌改良をはじめとする借り手のニーズに対応した基盤整備を支援

④ 果樹支援関連対策

(果樹・茶支援関連対策で実施)
57億円の内数
(56億円の内数)

- ・ 農地中間管理機構が園地を借り受け、園地整備と改植を行う取組を支援

(2) 農業委員会の活動による農地利用の最適化

① 農業委員会の活動による農地利用最適化の推進

123億円
(73億円)

- ・ 農地利用の最適化の推進のための農業委員会の積極的な活動を支援

② 機構集積支援事業

(農地中間管理機構による
担い手への農地集積・集約化の加速化で実施)
29億円
(22億円)

【補正予算】
農地情報公開
システムデータ整備
15億円

- ・ 遊休農地の所有者の利用意向調査、農地情報公開システムの維持管理、農業委員等の資質向上に向けた研修等を支援

(3) 法人経営、集落営農、新規就農など多様な担い手の育成・確保

① 農業経営力向上支援事業

7億円
(7億円)

- ・ 農業経営の法人化・集落営農の組織化の取組を支援するとともに、農業経営の質の向上(農業界と経済界の人材マッチング、雇用就農者等のキャリアアップ等)を促進

② 農業人材力強化総合支援事業 (旧 新規就農者・経営継承総合支援事業)	202億円 (193億円) うち農業次世代人材 投資事業(旧青年就 農給付金) 140億円 (116億円)	【補正予算】 農業経営塾の展開支援 2億円
③ 経営体育成支援事業	28億円 (30億円)	
④ 担い手確保・経営強化支援事業		【補正予算】 53億円
⑤ 担い手経営発展支援金融対策		【補正予算】 46億円

2 水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施

① 水田活用の直接支払交付金	3,150億円 (3,078億円)	
② 米活用畜産物等ブランド化推進事業	0.4億円 (0.4億円)	
③ 水田の畑地化・汎用化の推進＜公共＞	(農業農村整備事業で実施) 1,034億円の内数 (－)	【補正予算】 496億円
④ 野菜生産転換促進事業	(新しい野菜産地づくり支援事業で実施) 15億円 (－)	
⑤ 次世代施設園芸の取組拡大	次世代施設園芸拡大支援事業 5億円 (10億円) (強い農業づくり交付金で実施) 優先枠20億円 (15億円)	
⑥ 高収益作物の生産支援		【補正予算】 144億円

⑦ 畑作物の直接支払交付金	(所要額) 1,950億円 (1,948億円)
・ 麦、大豆、てん菜、でん粉原材料用ばれいしょ等の畑作物を生産する認定農業者等の担い手に対し、経営安定のための交付金を交付	
⑧ 収入減少影響緩和対策交付金	(所要額) 746億円 (753億円)
・ 認定農業者等の担い手に対し、米、麦、大豆等の収入が標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補填（加入者と国が1対3の割合で負担）	
⑨ 米穀周年供給・需給拡大支援事業	50億円 (50億円)
・ 気象の影響等により必要が生じた場合に、産地が自主的に行う米の年間を通じた安定販売（収穫前契約や複数年契約等）、需要拡大等の取組を支援	
⑩ 米の直接支払交付金	714億円 (723億円)
・ 米を生産する農業者の経営安定のための交付金を交付（29年産までの時限措置（30年産から廃止））	
⑪ 収入保険制度の導入・農業災害補償制度の見直しに向けた準備	5億円 (－)
・ 収入保険制度の導入及び農業災害補償制度の見直しに向けて、加入申請や青色申告等に関する相談体制づくり、システム整備等の準備を推進	

3 強い農林水産業のための基盤づくり

(1) 農林水産基盤整備（競争力強化・国土強靱化）

① 農業農村整備事業＜公共＞	3,084億円 (2,962億円)	【補正予算】 1,580億円
・ 農地の大区画化、老朽化した施設の改修等の遅れがみられる中、農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地集積の加速化、農業の高付加価値化のための農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化・耐震化対策等を推進		
② 農地耕作条件改善事業（再掲）	236億円 (123億円)	【補正予算】 102億円
③ 森林整備事業＜公共＞	1,203億円 (1,203億円)	【補正予算】 310億円
・ 国産材の安定供給体制を構築するとともに地球温暖化を防止するため、間伐や路網整備、主伐後の再造林等を推進		
④ 次世代木材生産・供給システム構築事業	(次世代林業基盤づくり交付金) 70億円の内数 (61億円の内数)	
・ 用途別に需要に的確に対応できる木材のサプライチェーンを構築するため、間伐・路網整備を推進		
⑤ 治山事業＜公共＞	597億円 (597億円)	【補正予算】 100億円
・ 地震・集中豪雨等に対する山地防災力の強化のため、荒廃山地の復旧・予防対策、津波に強い海岸防災林の保全等を推進		

- | | | |
|---|-------------------------------------|--------------------------------|
| <p>⑥ 水産基盤整備事業<公共></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出拠点となる漁港の衛生管理対策や水産資源の回復対策、漁業地域の地震・津波対策、漁港施設の長寿命化対策や漁港機能の集約化・有効活用を推進 | <p>700億円
(700億円)</p> | <p>【補正予算】
160億円</p> |
| <p>⑦ 漁港機能増進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁港のストック効果の最大化を図りつつ、漁村の活力を取り戻すため、就労環境の改善や漁港施設の有効活用等に資する施設の整備を支援 | <p>10億円
(-)</p> | |
| <p>⑧ 農山漁村地域整備交付金<公共></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援 | <p>1,017億円
(1,067億円)</p> | |

(2) 農林水産関係施設整備

- | | | |
|---|--|--------------------------------|
| <p>① 強い農業づくり交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国産農畜産物の安定供給のため、生産から流通までの強い農業づくりに必要な共同利用施設の整備等を支援 | <p>202億円
(208億円)</p> | |
| <p>② 産地パワーアップ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 営農戦略を策定した平場・中山間地域などで、高性能な機械・施設の導入や集出荷施設等の再編、改植等による高収益作物・栽培体系への転換を支援 | | <p>【補正予算】
570億円</p> |
| <p>③ 加工施設再編等緊急対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加工施設の再編等を支援 | | <p>【補正予算】
10億円</p> |
| <p>④ 森林・林業再生基盤づくり交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国産材の安定的・効率的な供給等を図るため、木造公共建築物、木材加工流通施設、高性能林業機械の整備等を支援 | <p>(次世代林業基盤づくり交付金で実施)
70億円の内数
(61億円の内数)</p> | |
| <p>⑤ 合板・製材生産性強化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模・高効率の加工施設の整備、当該施設への原料の安定供給のための間伐・路網整備等を支援 | | <p>【補正予算】
330億円</p> |
| <p>⑥ 浜の活力再生交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「浜の活力再生プラン」に位置づけられた共同利用施設の整備、プラン策定地域における水産資源の管理や防災・減災対策の取組、プランの見直しに関する活動等を支援 | <p>(浜の担い手・地域活性化対策で実施)
54億円
(41億円)</p> | |
| <p>⑦ 水産業競争力強化緊急事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域浜プランに基づく担い手へのリース方式による漁船や国際水準に見合った漁船の導入、産地の施設の再編整備、競争力強化に資する取組や漁業用機器の導入等を支援 | | <p>【補正予算】
255億円</p> |
| <p>⑧ 特殊自然災害対策施設緊急整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火山の降灰被害に対応するための洗浄用機械施設等の整備やこれと一体的に行う用水確保対策等を支援 | <p>2億円
(2億円)</p> | |

(3) 畜産・酪農の競争力強化

① 畜産・酪農経営安定対策	(所要額)	1,763億円	(1,698億円)	
・ 畜種ごとの特性に応じて畜産・酪農経営の安定を支援し、意欲ある生産者が経営の継続・発展に取り組める環境を整備				
② 酪農経営体生産性向上緊急対策事業	60億円	(一)		
・ 農業従事者の中でもとりわけ過酷な労働条件にある酪農家の労働負担軽減・省力化に資する機器の導入等を支援				
③ 飼料生産型酪農経営支援事業	70億円	(68億円)		
・ 環境負荷軽減に取り組みつつ、飼料の二期作・二毛作等を行う酪農家や、輸入粗飼料の使用量削減や乳用後継牛の増頭に取り組むとともに飼料作付面積を拡大する酪農家を支援				
④ 飼料増産総合対策事業	10億円	(10億円)		
・ 濃厚飼料原料の増産、レンタルカウを活用した肉用繁殖牛等の放牧の推進、コントラクターの機能の高度化、エコフィードの増産等を支援				
⑤ 草地関連基盤整備〈公共〉	(農業農村整備事業で実施)	62億円	(48億円)	【補正予算】
・ 畜産経営規模の拡大や畜産主産地の形成に資する飼料生産の基盤整備等を推進				685億円
⑥ 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業				【補正予算】
・ 畜産クラスター計画を策定した地域の収益性向上等に必要な機械のリース導入、施設整備等を支援				94億円
⑦ 畜産クラスターを後押しする草地整備の推進〈公共〉				【補正予算】
・ 畜産クラスター計画を策定した地域において、地域ぐるみの効率的な飼料生産を一層推進するため、草地・畑地の一体的整備、草地の大区画化等を支援				16億円
⑧ 畜産・酪農生産力強化対策事業				【補正予算】
・ 和牛受精卵・性判別精液の活用、優良な純粋種豚・精液の導入等を支援するとともに、受胎率の向上や分娩事故の防止等により後継牛を効率的に生産するため、地域全体のサポート体制の構築（技術力向上、飼養管理情報の共有等）をモデル的に支援				9億円
⑨ 飼料生産基盤利活用促進緊急対策事業				【補正予算】
・ 難防除雑草の駆除による草地改良を支援。また、国産粗飼料の広域流通体制の構築、公共牧場の活用拡大と機能強化、日本型放牧の推進を支援				17億円
⑩ 畜産経営体質強化資金対策事業				
・ 意欲ある畜産農家の既往負債の借換えに係る利子補給等を支援するとともに、乳用牛及び繁殖牛の計画的な増頭に必要な資金の借入れに係る保証料を免除				

(4) 品目別生産振興対策

- | | | |
|---|--------------------------------------|------------------------|
| ① 野菜価格安定対策事業 | (所要額)
172億円
(171億円) | |
| ・ 野菜生産・出荷の安定と消費者への安定供給を図るため、価格低落時における生産者補給金の交付等を実施 | | |
| ② 新しい野菜産地づくり支援事業 | 23億円
(11億円) | |
| ・ 水田地帯における野菜生産への転換や実需者ニーズに対応した加工・業務用野菜への作付転換、青果物流通の合理化・効率化に必要な新たな輸送システムの導入実証を支援 | | |
| ③ 果樹・茶支援関連対策 | 72億円
(70億円) | |
| ・ 果樹について、改植やこれに伴う未収益期間に対する支援、園地整備、計画生産・出荷等に対する支援を実施するとともに、茶について、改植やこれに伴う未収益期間に対する支援、高付加価値茶産品に適した品種への転換に向けた被覆資材に対する支援を実施 | | |
| ④ 甘味資源作物生産支援対策 | 98億円
(93億円) | 【補正予算】
16億円 |
| ・ 国内産糖と輸入糖との内外コスト差を調整し、甘味資源作物生産者等の経営安定を図るための交付金を交付するとともに、「さとうきび増産基金」により、病虫害防除・かん水など自然災害に対応した取組を支援 | | |
| ⑤ 国産花きイノベーション推進事業 | 8億円
(7億円) | |
| ・ 国産花きのシェア奪還と輸出促進を図るため、需要に合わせた切り花や植木・盆栽の生産体制の強化、花き需要拡大に向けたプロモーション活動等を支援 | | |
| ⑥ 薬用作物等地域特産作物産地確立支援事業 | 5億円
(5億円) | |
| ・ 薬用作物等の栽培技術の確立・普及を支援するとともに、薬用作物の優良種苗安定供給体制の整備、地域特産作物（ごま、繭等）の特徴ある機能性を活用した新需要創出の取組を支援 | | |
| ⑦ 畜産・酪農経営安定対策（再掲） | (所要額)
1,763億円
(1,698億円) | |

(5) 農林水産分野におけるイノベーションの推進

- | | |
|--|-----------------------|
| ① 目標を明確にした戦略的技術開発 | |
| ア 「知」の集積と活用によるイノベーション | 21億円
(20億円) |
| ・ 農林水産分野に異分野の知識・技術等を導入し、革新的な技術を生み出して商品化・事業化に導く産学官連携研究を推進 | |
| イ 重点的な委託研究プロジェクトによるイノベーション | 41億円
(38億円) |
| ・ 国において、農林水産政策上特に重要な研究開発課題（人工知能（ＡＩ）の活用等）について企画・立案し、重点的に委託研究プロジェクトを推進 | |

- | | |
|---|-----------------------------|
| <p>② 農林水産業におけるロボット技術安全性確保策検討事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動走行農業機械等のロボット技術に関する生産現場における安全性の検証やルールづくり、ロボット農機の完全自動走行の実現に必要な技術等を検証する取組を支援 | <p>1億円
(1億円)</p> |
| <p>③ 革新的技術開発・緊急展開事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熟練農業者のノウハウの「見える化」、研究成果の「見える化」、目標を明確にした戦略的技術開発を推進 | |

4 農林水産業の輸出力強化と農林水産物・食品の高付加価値化

(1) 農林水産業の輸出力強化

- | | |
|---|-------------------------------|
| <p>① 輸出戦略の実行体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産業の輸出力強化戦略の着実な実施に向け、輸出促進のため設置した司令塔（関係府省庁、事業者団体等から構成される輸出戦略実行委員会）の下、オールジャパンで輸出に取り組む品目別輸出団体の育成、産地間連携の促進等を実施 | <p>12億円
(13億円)</p> |
| <p>② 輸出総合サポートプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オールジャパンの輸出サポート・プロモーション ・ ブランディング機関を創設し、国内での事業者発掘、輸出相談窓口のワンストップ対応、海外での商談支援、マーケティング拠点を利用した販売促進支援など、輸出に取り組む事業者を継続的かつ一貫して支援 | <p>16億円
(15億円)</p> |
| <p>③ 国際農産物等市場構想推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際空港及び国際港湾近辺における卸売市場の輸出拠点化を推進するため、青果物・花き等について品質を保持してスピーディーに輸出する手法等の調査と拠点化構想の策定を支援 | <p>2億円
(2億円)</p> |
| <p>④ 食文化発信による海外需要フロンティア開拓の加速化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国産農林水産物・食品の輸出を促進するため、トップセールス、海外における日本食・食文化の普及を担う料理人等の育成、海外レストランにおける日本産食材の活用推進等の取組を支援 | <p>7億円
(8億円)</p> |
| <p>⑤ 地理的表示保護制度活用総合推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G I（地理的表示）保護制度の活用による地域産品のブランド化を進めるため、G Iの登録申請やG I保護制度の普及啓発を支援 | <p>2億円
(2億円)</p> |
| <p>⑥ 植物品種等海外流出防止総合対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外への我が国種苗の流出・無断増殖を防止するため、海外における品種登録（育成者権取得）を支援するとともに、出願マニュアル作成、東アジア植物品種保護フォーラム開催等を支援 | <p>1億円
(－)</p> |

- ⑦ **海外規格等との相互認証、日本発規格の国際化** **1億円**
(1億円)
- 国際規格との連動を見据え、日本産品の強みをアピールできるJAS規格の制定に向けた調査を実施するとともに、国際的な取引で通用し、かつ、日本の食文化に適用しやすい日本発の食品安全管理規格・認証スキームを支援

- ⑧ **輸出促進に資する動植物検疫等の環境整備** **5億円**
(4億円)
- 国産農林水産物の輸出を促進するため、産地に対する輸出先国の検疫条件や残留農薬基準に合った技術的サポート体制の整備、輸出検疫協議の迅速化を図るための技術的データの蓄積、病害虫発生状況の全国調査、家畜疾病対策等を実施

- ⑨ **国内外での輸出拠点の整備〈一部公共〉**
- 空港・港湾に近い卸売市場の活用（コンテナヤードの整備等）、海外における産直市場的施設の設置など生産者による直接輸出の取組の促進、輸出拡大のために必要な生産物の流通・加工施設（HACCP対応施設、CA（環境制御型）貯蔵施設等）の整備等を支援
 - ※ これを加えて、農林漁業成長産業化ファンドによる支援も充実

**【補正予算】
203億円**

- ⑩ **輸出拡大のためのサポート体制の充実**
- 海外市場に関する情報等の一元集約と農林漁業者等への相談体制の強化、海外において小売店・外食に対して国産農林水産物の需要の掘り起こしを行う体制の強化、海外の日本産食材サポーター店等を活用した情報発信等を支援

**【補正予算】
56億円**

- ⑪ **政府が主体的に行う輸出環境の整備**
- 通関手続の一元化と証明書発行の利便性向上のためのシステム整備、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会も視野に国際的に通用する日本発の民間の規格・認証の仕組みの普及・推進、植物品種の登録・出願に対する支援等海外での知的財産権の取得推進等を支援

**【補正予算】
11億円**

（２）農林水産物・食品の高付加価値化

- ① **食育の推進と国産農林水産物の消費拡大、食品ロスの削減** **9億円**
(9億円)
- 第3次食育推進基本計画に基づき、和食文化の継承をはじめとした食育の推進を図るとともに、地産地消の推進など国産農林水産物の消費拡大、食品ロス削減に向けた取組等を支援

- ② **食文化発信による海外需要フロンティア開拓の加速化（再掲）** **7億円**
(8億円)

- ③ **国産農林水産物・食品への理解増進事業**
- 大規模集落施設での販促活動、商工会議所・商工会等と連携した新商品開発を支援

**【補正予算】
2億円**

- ④ **農林漁業成長産業化ファンドの積極的活用**
- ・ (株)農林漁業成長産業化支援機構を通じ、生産・流通・加工等の産業間が連携した取組について、資本の提供と経営支援を一体的に実施

【財投資金】
(株)農林漁業成長産業化支援機構(A-FIVE)による出融資枠
267億円の内数

- ⑤ **6次産業化支援対策**
- ・ 農林漁業者と多様な事業者が連携して行う新商品開発・販路開拓及び施設整備、プランナーによる事業者等に対するサポート体制の整備、外食・中食における地場産食材の取引先確保の取組等を支援

23億円
 (24億円)

5 食の安全・消費者の信頼確保

- ① **消費・安全対策交付金**
- ・ ジャガイモシロシストセンチュウ、ウメ輪紋ウイルス等の農作物の病害虫の海外からの侵入や国内でのまん延防止に加え、鳥インフルエンザ等の家畜の伝染性疾病について地域の実情に応じて自主的に行われる発生予防・まん延防止等の取組を支援

19億円
 (18億円)

- ② **重要病害虫緊急防除対策事業**
- ・ ジャガイモシロシストセンチュウのまん延防止・根絶を図る対策を推進

【補正予算】
20億円

- ③ **家畜衛生等総合対策**
- ・ 鳥インフルエンザ等の家畜の伝染性疾病について、水際対策を実施するとともに、家畜伝染病予防法に基づく発生予防・まん延防止等全国で統一に行うべき取組を支援

55億円
 (55億円)

- ④ **畜産・水産分野における薬剤耐性対策**
- ・ 畜産・水産分野における薬剤耐性菌の監視・動向調査を強化し、抗菌剤の慎重な使用に関する研修を実施するとともに、ワクチンや代替薬の開発等を支援

(消費・安全対策交付金等で実施)

23億円の内数
 (21億円の内数)

- ⑤ **産地偽装取締強化等対策**
- ・ 効果的・効率的な監視を実施するため、食品の科学的分析等による原産地判別等の強化などを実施

3億円
 (2億円)

6 人口減少社会における農山漁村の活性化

(1) 中山間地農業の活性化支援

- ① **中山間地農業ルネッサンス事業〈一部公共〉
 (中山間地農業特別支援対策)**
- ・ 中山間地の特色を活かした多様な取組を後押しするため、地域コミュニティによる農地等の地域資源の維持・継承や、多様で豊かな農業と美しく活力ある農山村の実現に向けた取組を総合的に支援

400億円
 (優先枠を設けて実施)

【補正予算】
300億円
(優先枠を設けて実施)

- ② 中山間地域所得向上支援対策〈一部公共〉
- ・ 中山間地域において、収益性の高い農産物の生産
 - ・ 販売等に本格的に取り組む場合に、実践的な計画策定、水田の畑地化等の基盤整備、生産・販売等の施設整備等を総合的に支援

(2) 日本型直接支払の実施

- ① 多面的機能支払交付金 **483億円**
(483億円)
- ・ 農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付
- ② 中山間地域等直接支払交付金 **263億円**
(263億円)
- ・ 中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、条件不利地域での農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付
- ③ 環境保全型農業直接支払交付金 **24億円**
(24億円)
- ・ 化学肥料及び農薬の5割低減の取組と合わせて、地球温暖化防止等に効果の高い営農活動を行う農業者等に交付金を交付

(3) インバウンドの推進と農山漁村の振興

- ① 「農泊」の推進 **101億円の内数**
(80億円の内数)
(農山漁村振興交付金で実施)
- ・ 増大するインバウンド需要を呼び込み、農山漁村の所得向上を図るため、「農泊」をビジネスとして実施できる体制の構築、地域に眠っている資源の魅力ある観光コンテンツとしての磨き上げ等の取組や古民家等を活用した滞在施設、農林漁業体験施設等の整備を一体的に支援
(このほか、国有林において、修景伐採、木道整備等を実施)
- ② 食によるインバウンド対応推進事業 **1億円**
(1億円)
- ・ 食と景観等が一体的に魅力を織りなす地域（食と農の景勝地）を情報発信するとともに、飲食店等の多言語対応等を支援
- ③ おみやげ農畜産物検疫受検円滑化支援事業 **0.4億円**
(0.5億円)
- ・ 外国人旅行者が直売所等で購入した農畜産物が動植物検疫を経て空港等で円滑に受け取れる仕組みを普及するとともに、輸出検疫条件が複雑な品目の検疫手続円滑化モデルを支援
- ④ 農山漁村振興交付金 **101億円**
(80億円)
- ・ 都市と農山漁村の共生・対流の促進や地域の活性化、薪炭・山菜など地域資源の活用等による山村の活性化、福祉農園の開設等による農福連携の推進、定住・地域間交流、雇用の増大を促進するための施設等の整備を支援
- ⑤ 荒廃農地等利活用促進交付金 **2億円**
(2億円)
- ・ 荒廃農地等を再生利用するための雑草・雑木除去や土作り等の取組を支援

(4) 都市農業の機能発揮

- ① 都市農業機能発揮対策事業 2億円
(2億円)
- 都市農業の多様な機能の発揮を促進するため、国土交通省と連携し、都市農業に関する課題の調査を実施するほか、都市農地の周辺環境対策、都市農業の意義の周知、災害時の避難地としての農地の活用を支援

(5) 再生可能エネルギーの導入促進

- ① 再生可能エネルギー導入等の推進 9億円
(2億円)
- 再生可能エネルギー事業によるメリットを地域の農林漁業の発展に活用する取組、農業水利施設を活用した小水力発電等に係る調査設計、地域のバイオマスを活用した産業化等に必要な施設整備等を支援
- ② 木質バイオマスの利用拡大 (新たな木材需要創出総合プロジェクトで実施)
5億円
(5億円)
- 木質バイオマスの利用促進を図るため、エネルギー利用拡大に向けた全国的な調査、新たなマテリアル利用の促進に向けた技術開発等を支援

(6) 鳥獣被害防止対策の推進

- ① 鳥獣被害防止総合対策交付金 95億円
(95億円) 【補正予算】
9億円
- 鳥獣被害対策実施隊の増設・捕獲活動の実施、侵入防止柵の設置、捕獲技術高度化施設や処理加工施設の整備、ジビエ活用の推進等を支援
- ② シカによる森林被害緊急対策事業 2億円
(2億円) 【補正予算】
1億円
- シカによる森林被害が深刻な地域において、地方公共団体等と連携し、広域かつ緊急的に捕獲、防除等を実施

7 林業の成長産業化・森林吸収源対策の推進

- ① 次世代林業基盤づくり交付金 70億円
(61億円)
- 需要に応じた低コストで効率的な木材の生産・供給を実現するため、CLT（直交集成板）等を活用した木造公共建築物の整備等により需要拡大を図るとともに、木材加工流通施設、苗木生産施設等の整備、間伐・路網整備を行い、地域の実情に応じた川上から川下までの取組を総合的に支援
- ② 林業成長産業化地域創出モデル事業 (次世代林業基盤づくり交付金で実施)
10億円
(一)
- 川上から川下までの事業者がバリューチェーンでつながり収益性の高い経営を実現する「林業成長産業化地域」をモデル的に選定し、地域が提案する明確なビジョンの下での取組を総合的に支援
- ③ 合板・製材生産性強化対策（再掲） 【補正予算】
330億円
- ④ 施業集約化の加速化 9億円
(6億円)
- 森林所有者・境界の明確化や関係者の合意形成に向けて森林整備地域活動支援交付金を交付するほか、市町村が森林の所有者情報を一元的に取りまとめた林地台帳の整備にも資する森林GIS等のシステム整備を支援

⑤ 森林・林業人材育成対策	60億円 (59億円)	
・ 林業への就業前の青年に対する給付金の給付や、「緑の雇用」事業による人材の育成を支援		
⑥ 新たな木材需要創出総合プロジェクト	12億円 (14億円)	【補正予算】 地域材利用拡大緊急 対策事業 5億円
・ 中高層建築等に活用できるC L Tの利用促進、セルロースナノファイバーなど新たな製品・技術の開発・普及の加速化、地域材の利用拡大等を支援		
⑦ C L T利用促進総合対策		【補正予算】 10億円
・ C L T等を活用した先駆的な建築物の建築、大規模・高効率の加工施設におけるC L T製造ラインの整備を支援		このほか合板・製材 生産性強化対策で実 施 330億円の内数
⑧ 違法伐採対策の推進	(新たな木材需給創出総合プロジェクトで実施)	【補正予算】
・ クリーンウッド法（合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律）の施行のための取組を実施	1億円 (0.4億円)	2億円
⑨ 花粉発生源対策	5億円 (4億円)	
・ 花粉の少ない品種等を対象とした採種園等の造成 ・ 改良、コンテナ苗の生産技術研修、花粉症対策苗木への植替え、花粉飛散防止剤の実証試験等を支援		
⑩ 森林・山村の多面的機能の発揮対策	17億円 (25億円)	
・ 森林・山村の多面的機能の発揮を図るため、地域における活動組織が実施する森林の保全管理や森林資源の利用等の取組を市町村等の協力を得て支援		
⑪ 森林整備事業＜公共＞（再掲）	1,203億円 (1,203億円)	【補正予算】 310億円
⑫ 治山事業＜公共＞（再掲）	597億円 (597億円)	【補正予算】 100億円

8 水産日本の復活

① 浜の担い手・地域活性化対策	66億円 (50億円)	
・ 浜の活力再生プランの着実な実行を推進するための共同利用施設の整備、漁業への就業前の青年に対する資金、就業・定着促進や経営知識・技術の習得等のための研修等を支援		
② 浜の活力再生交付金（再掲）	(浜の担い手・地域活性化対策で実施) 54億円 (41億円)	
③ 水産業競争力強化緊急事業（再掲）		【補正予算】 255億円
④ 資源管理・資源調査の強化	42億円 (39億円)	
・ 漁業者の理解を得る適切な資源管理を推進するため、資源評価の精度向上、国際共同資源調査等に取り組むほか、漁場形成・海況予測に関する情報を提供		

⑤ 漁業経営安定と漁業構造改革の推進	資源管理に取り組む漁業者に対する共済・積立ぶらすを活用した収入安定対策、燃油や配合飼料の価格上昇に対するコスト対策を実施するとともに、高性能漁船の導入による収益性向上等を支援	290億円 (334億円)	【補正予算】 漁業構造改革総合対策事業 34億円
		うち漁業収入安定対策事業 146億円 (203億円) うち漁業構造改革総合対策事業 40億円 (3億円)	
⑥ 水産物の加工・流通・輸出対策	H A C C P 認定の促進等を通じた輸出環境を整備するとともに、消費者ニーズや産地情報等の共有化、学校給食向け加工品の開発等を支援	14億円 (15億円)	
⑦ 水産多面的機能の発揮対策と離島漁業の再生支援	漁業者等が行う藻場・干潟の保全、国境水域の監視等の地域活動を支援するとともに、離島における漁業集落の再生活動を支援	43億円 (40億円)	
⑧ 増養殖対策	新たな栽培対象種の開発促進、さけ・ますの種苗放流手法の改良、低魚粉配合飼料による養殖技術の確立・普及、真珠養殖業等の連携強化、商業化に向けたシラスウナギの大量生産システムの実証、カワウ・外来魚の被害防止対策等を支援	14億円 (14億円)	
⑨ 捕鯨対策	調査捕鯨の安定的な実施を支援するとともに、I C J (国際司法裁判所) 判決を踏まえた調査計画に基づく鯨類捕獲調査を円滑かつ効果的に実施するため、非致命的調査や妨害対策への対応、我が国立場に対する支持国拡大と関係国との関係強化に関する取組、調査捕鯨に関する情報発信等を実施	51億円 (51億円)	
⑩ 韓国・中国等外国漁船操業対策事業	外国漁船が投棄した漁具等の回収・処分、外国漁船の操業状況の調査・監視等を支援		【補正予算】 40億円
⑪ 水産基盤整備事業＜公共＞（再掲）		700億円 (700億円)	【補正予算】 160億円
⑫ 漁港機能増進事業（再掲）		10億円 (－)	

※ この他、諫早湾干拓開門対策経費として、62億円を計上

特集 2. 「農業競争力強化プログラム」について

「農業競争力強化プログラム」とは

昨年11月、「強い農林水産業」、「美しく活力のある農山漁村」を創り上げることを目的とした「農林水産業・地域の活力創造プラン」が改訂されました。

今回の改訂で、更なる農業の競争力強化のための改革が示され、一昨年の農政新時代で示された検討の継続項目を中心とした13項目の具体的な取組内容を示したものが「農業競争力強化プログラム」です。

農業競争力強化プログラム（概要）

農業者の所得向上を図るためには、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決していくことが必要である。

このため、生産資材価格の引下げや、農産物の流通・加工構造の改革をはじめ13項目について以下のとおり取り組み、更なる農業の競争力強化を実現する。

1 生産資材価格の引き下げ (肥料、農薬、機械、飼料など)

(1) 生産資材価格の引下げ

- 国際水準への価格引下げを目指す
- 生産資材業界の業界再編の推進
- 生産資材に関する法規制の見直し
- 国の債務、業界再編に向けた推進手法等を明記した法整備を推進

(2) 全農改革

(生産資材の買い方の見直し)

全農は、

- 農業者の立場に立って、共同購入のメリットを最大化
- 外部の有意な人材も登用し、資材メーカーとの確に交渉できる少数精鋭の組織に転換
- 入札等により資材を有利に調達
- 農協改革集中推進機関に十分な成果が出るよう年次計画を立てて改革に取り組む

2 流通・加工の構造改革 (卸売市場関係業者、米卸売業者、量販店など)

(1) 生産者に有利な流通・加工構造の確立

- 効率的・機能的な流通・加工構造を目指す
- 農業者・団体から実需者・消費者に農産物を直接販売するルートの拡大を推進
- 中間流通（卸売市場関係業者、米卸売業者など）について、抜本的な合理化を推進し、事業者の業種転換等を支援
- 量販店などについて、適正な価格での販売を実現するため、業界再編を推進
- 国の債務・業界再編に向けた推進手法等を明記した法整備を推進

(2) 全農改革

(農産物の売り方の見直し)

全農は、

- 中間流通業者への販売中心から、実需者・消費者への直接販売中心にシフト
- 必要に応じ、販売ルートを確立している流通関連企業を買収
- 委託販売から買収販売へ転換
- 輸出について、国ごとに、商社等と連携した販売体制を構築
- 農協改革集中推進期間に十分な成果が出るよう年次計画を立てて改革に取り組む



3 人材力の強化

- 新規就農者が営農しながら経営能力の向上に取り組むために、各県に「農業経営塾」を整備
- 法人雇用を含めた就農等を支援
- 外国人技能実習制度とは別の外国人材活用スキームの検討

4 戦略的輸出体制の整備

- 平成31年の1兆円目標に向けて、本年5月の「農林水産業の輸出力強化戦略」を具体化
- 日本版SOPEXAの創設（農業者の所得向上に繋がるブランディング・プロモーション、輸出サポート体制）

5 原料原産地表示の導入

消費者の選択に資するため、全ての加工食品について

- 重量割合上位1位の原材料について国別の重量順に表示することを基本
- 実行可能性を考慮したルールを設定

6 チェックオフ（生産者から拋出金を徴収、販売促進等に活用）の導入

- チェックオフを要望する業界における検討手順（推進母体・スキーム・同意要件）を定め、一定以上の賛同で法制化に着手

7 収入保険制度の導入

- 適切な経営管理を行っている農業経営者の農業収入全体に着目したセーフティネットを導入
 - ・青色申告をしている農業経営者が加入
 - ・農業収入全体を対象
 - ・過去5年の平均を基準収入とし、収入減の一定部分を補てん
 - ・保険方式と積立方式とを併用
- 併せて現行の農業共済制度を見直し
 - ・米麦の共済制度の強制加入を任意加入に変更

8 土地改良制度の見直し

- 農地の集積・集約化を進めるため、農地集積バンクが借りている農地のほ場整備事業について、農地所有者等の費用負担をなくし、事業実施への同意を不要とする

9 農村の就業構造の改善

- 農村に就業の場を確保するため、工場等に限定せず、サービス業等についても導入を推進

10 飼料用米の推進

- 多収品種の導入等による生産コストの低減、耕種農家・畜産農家の連携による畜産物の高付加価値化を図る取組等を推進

11 肉用牛・酪農の生産基盤強化 12 配合飼料価格安定制度の安定運営

- 肉用牛・牛乳乳製品の安定供給を確保するため、繁殖雌牛の増頭、乳用後継牛の確保、生産性の向上、自給飼料の増産等を推進
- 配合飼料価格安定制度の安定的な運営

13 生乳の改革

- 生産者が自由に出荷先を制度に改革
- 指定団体以外にも補給金を交付
- 全量委託だけでなく、部分委託の場合にも補給金を交付

農業競争力強化プログラム 説明動画はコチラ

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/nougyo_kyousou_rvoku/index.html#a



～日本の農業、もっと強く。～

平成29年度当初予算における 農業競争力強化プログラムの主な関連予算

	主な項目	予算額 (【補正】は平成28年度 第2次補正予算)	重点事項の ページ
○生産者の所得向上 につながる生産資 材価格形成の仕組 みの見直し	農業生産関連事業の事業再編・新規参入の支援	(株)農林漁業成長産業化支援機構 (A-FIVE) による出融資 (株)日本政策金融公庫による融資	注①
	生産資材価格の見える化等	【補正】 < 1 億円 >	注②
	革新的技術開発・緊急展開事業	【補正】 < 1 1 7 億円 >	9
○生産者が有利な条 件で安定取引を行 うことができる流 通・加工の業界構 造の確立	農業生産関連事業の事業再編・新規参入の支援	(株)農林漁業成長産業化支援機構 (A-FIVE) による出融資 (株)日本政策金融公庫による融資	注①
	生産資材価格の見える化等	【補正】 < 1 億円 >	注②
	加工施設再編等緊急対策事業	【補正】 < 1 0 億円 >	5
○農政新時代に必要 な人材力を強化す るシステムの整備	農業経営力向上支援事業	7 億円	2
	農業人材力強化総合支援事業 (旧 新規就農・経営継承総合支援事業)	2 0 2 億円	2
	農業経営塾の展開支援	【補正】 < 2 億円 >	2
	「知」の集積と活用によるイノベーション	2 1 億円	9
	重点的な委託研究プロジェクトによるイノベーション	4 1 億円	9
	農林水産業におけるロボット技術安全性確保策 検討事業	1 億円	9
	革新的技術開発・緊急展開事業	【補正】 < 1 1 7 億円 >	9
	農山漁村振興交付金（農福連携）	1 0 1 億円の内数	14
○戦略的輸出体制の 整備 (オールジャパンの 輸出サポート・プ ロモーション・ブ ランディング機関 (日本版SOPEXA (仮称))の創設等)	輸出戦略の実行体制の強化	1 2 億円	10
	輸出総合サポートプロジェクト	1 6 億円	10
	国際農産物等市場構想推進事業	2 億円	10
	食文化発信による海外需要フロンティア開拓の 加速化	7 億円	10
	地理的表示保護制度活用総合推進事業	2 億円	10
	植物品種等海外流出防止総合対策事業	1 億円	10
	海外規格等との相互認証、日本発規格の国際化	1 億円	11
	輸出促進に資する動植物検疫等の環境整備	5 億円	11
	国内外での輸出拠点の整備<一部公共>	【補正】 < 2 0 3 億円 >	11
	輸出拡大のためのサポート体制の充実	【補正】 < 5 6 億円 >	11
	政府が主体的に行う輸出環境の整備	【補正】 < 1 1 億円 >	11

	主な項目	予算額 （【補正】は平成28年度 第2次補正予算）	重点事項の ページ
○収入保険制度の導入	収入保険制度の導入・農業災害補償制度の見直しに向けた準備	5億円	4
○真に必要な基盤整備を円滑に行うための土地改良制度の見直し	水田の畑地化・汎用化の推進＜公共＞	1, 034億円の内数 【補正】＜496億円＞	3
○農村地域における農業者の就業構造改善の仕組み	農山漁村振興交付金（農村地域の雇用創出）	101億円の内数	14
○飼料用米を推進するための取組	水田活用の直接支払交付金	3, 150億円	3
	米活用畜産物等ブランド化推進事業	0. 4億円	3
○肉用牛・酪農の生産基盤の強化策	飼料生産型酪農経営支援事業	70億円	7
	飼料増産総合対策事業	10億円	7
○配合飼料価格安定制度の安定運営のための施策	畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業	【補正】＜685億円＞	7
	畜産・酪農生産力強化対策事業	【補正】＜16億円＞	7
	飼料生産基盤利活用促進緊急対策事業	【補正】＜9億円＞	7
	畜産経営体質強化資金対策事業	【補正】＜17億円＞	8
○牛乳・乳製品の生産・流通等の改革	農業生産関連事業の事業再編・新規参入の支援	(株)農林漁業成長産業化支援機構 (A-FIVE) による出融資 (株)日本政策金融公庫による融資	注①
	加工施設再編等緊急対策事業	【補正】＜10億円＞	5
	酪農経営体生産性向上緊急対策事業	60億円	6

注① 農業生産関連事業の事業再編・新規参入の支援

- ・(株)農林漁業成長産業化支援機構及び(株)日本政策金融公庫を通じ、事業再編・新規参入を行う農業資材業者及び農畜産物加工販売業者を出融資により支援

注② 生産資材価格の見える化等

- ・農業者が生産資材（肥料・飼料・農薬等）の価格情報や、卸売市場における価格・委託手数料等を比較・選択することができる環境を整備

トピックス

「平成26年市町村別農業産出額（推計）」を公表しました



農林水産省は、「平成26年市町村別農業産出額（推計）（農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）」を新たに取りまとめました。

1.概要

農業産出額については、生産農業所得統計の結果として都道府県別の結果まで作成・提供していましたが、今般、農業の成長産業化に向けて現場の実態を重視した施策展開が求められている現状に鑑み、都道府県別農業産出額を基に農林業センサス結果等を用いた新たな市町村別農業産出額を提供することとしました。

2.ポイント

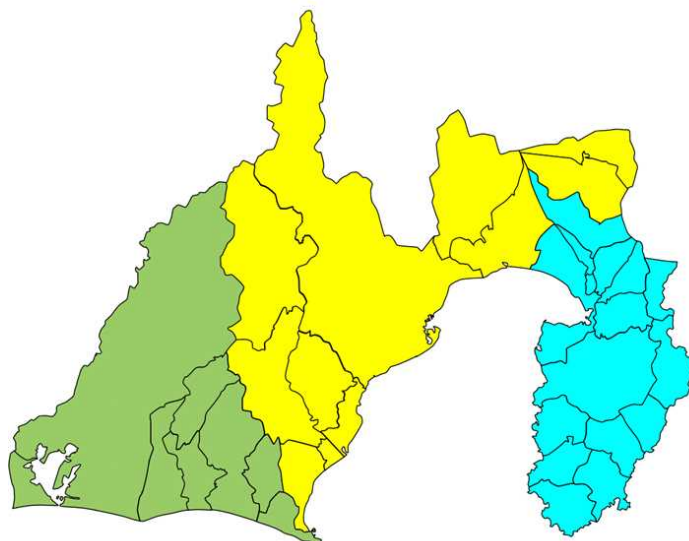
全国の市町村毎の農業産出額を一定の条件下で推計したものであり、統一した基準で比較できます。また、市町毎に農業の毎年の動向を把握することも可能となります。

3.公表資料

「平成26年市町村別農業産出額（推計）（農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）」については、都道府県毎に以下のURLより御覧になれます。

http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sityoson_sansyutu/H26/index.html

* なお、「平成27年市町村別農業産出額（推計）」は、平成29年3月に公表予定です。



青色申告を始めましょう！（収入保険制度の導入に向けて）



青色申告は、自分の経営を客観的につかむための重要なツールです。青色申告には税制上のメリットもありますので、早速、取り組んでみましょう。

なお、政府の農林水産業・地域の活力創造本部において、青色申告を行っている農業者を対象とした収入保険制度の導入が決定されました。

新たに青色申告を始めるためには、個人の場合、平成29年3月15日までに、最寄りの税務署に「青色申告承認申請書」を提出する必要があります。

この申請を行えば、平成29年分の所得から、青色申告を行うことができます(申告時期は平成30年2～3月)。

「農泊」に取り組みましょう！



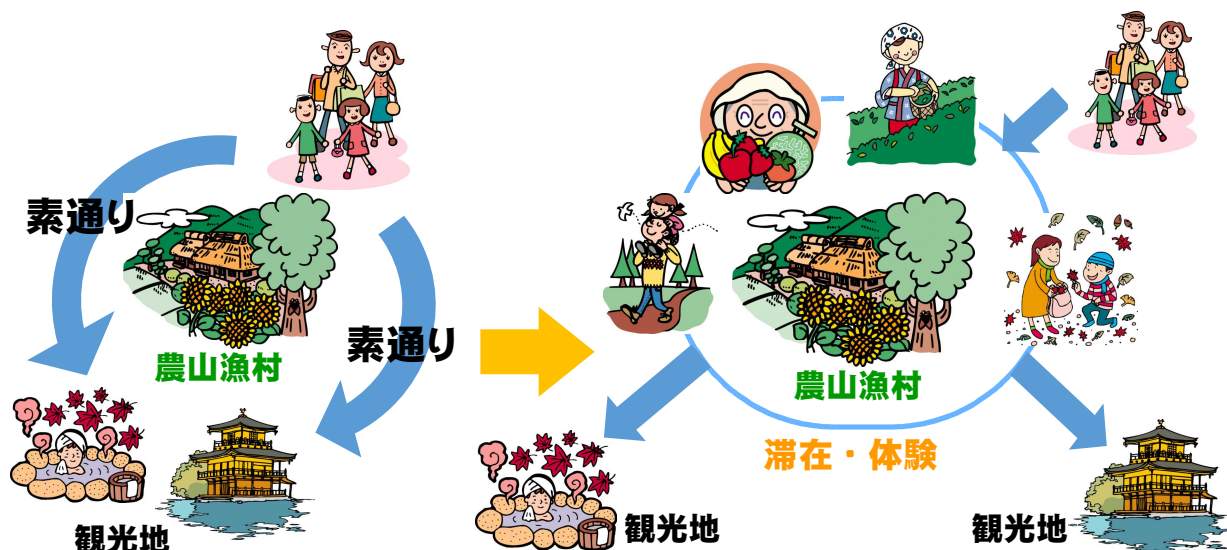
持続的なビジネスとしての「農泊」を推進することで、農山漁村の所得向上を実現し、農山漁村の活性化を図ります。

「明日の日本を支える観光ビジョン（平成28年3月策定）」において、「滞在型農山漁村の確立・形成」が位置付けられ、滞在を伴うインバウンド需要を農山漁村に呼び込む「農泊」*の推進を図ります。

*「農泊」とは、日本ならではの伝統的な生活体験や農山漁村地域の人々との交流を楽しむ滞在（農山漁村滞在型旅行）のことです。

<支援内容>

訪日外国人を含めた農山漁村への旅行者の大幅拡大を図り、農山漁村での滞在を伴う「農泊」を推進するため、新たなメニューを創設し、受入体制整備、ホームページ等の多言語化、外国人向け体験プログラムの企画等と併せ小規模な施設改修等（古民家の改修、トイレの洋式化等の整備、Wi-Fi環境の構築等）を支援します。



<青色申告承認申請書の様式>

税務署受付印

1 0 9 0

所得税の青色申告承認申請書

_____ 税務署長

_____ 年 _____ 月 _____ 日提出

納 税 地	住所・居住地・事業所等（該当するものを○で囲んでください。） (〒 -) (TEL - -)		
上 記 以 外 の 住 所 地 ・ 事 業 所 等	納税地以外に住所・事業所等がある場合は記載します。 (〒 -) (TEL - -)		
フリガナ			生 年 月 日
氏 名	Ⓜ		大正 昭和 平成 年 月 日生
職 業		フリガナ 屋 号	

平成_____年分以後の所得税の申告は、青色申告書によりたいので申請します。

- 1 事業所又は所得の基因となる資産の名称及びその所在地（事業所又は資産の異なるごとに記載します。）

名称 _____ 所在地 _____

名称 _____ 所在地 _____

- 2 所得の種類（該当する事項を○で囲んでください。）

事業所得 ・ 不動産所得 ・ 山林所得

- 3 いままでに青色申告承認の取消しを受けたこと又は取りやめをしたことの有無

(1) 有（取消し・取りやめ） _____ 年 _____ 月 _____ 日 (2) 無

- 4 本年1月16日以後新たに業務を開始した場合、その開始した年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

- 5 相続による事業承継の有無

(1) 有 相続開始年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 被相続人の氏名 _____ (2) 無

- 6 その他参考事項

- (1) 簿記方式（青色申告のための簿記の方法のうち、該当するものを○で囲んでください。）

複式簿記・簡易簿記・その他（ _____ ）

- (2) 備付帳簿名（青色申告のため備付ける帳簿名を○で囲んでください。）

現金出納帳・売掛帳・買掛帳・経費帳・固定資産台帳・預金出納帳・手形記入帳
債権債務記入帳・総勘定元帳・仕訳帳・入金伝票・出金伝票・振替伝票・現金式簡易帳簿・その他

- (3) その他

関与税理士

(TEL - -)

税整 務理 署欄	整 理 番 号	関係部門 連 絡	A	B	C	D	E
通信日付印の年月日							確認印
年 月 日							

関東農政局 静岡支局

〒420-8618 静岡市葵区東草深町7番18号

TEL 054-246-6121 FAX 054-246-6226

【地方参事官室】		054-246-6121
【経営所得安定対策チーム】		054-246-6121
【食料産業チーム】		054-246-6121
【統計チーム】	（経営・構造）	054-246-0612
	（生産流通）	054-246-6123
【消費・安全チーム】	（食品表示）	054-246-6959
	（米穀流通）	054-246-6125
	（農畜産安全）	054-246-6125

関東農政局静岡支局 案内図

